

<b>Course number</b>	U-LAS70 10001 SJ50				
<b>Course title (and course title in English)</b>	ILASセミナー：京都の海の沿岸動物学入門 ILAS Seminar: Introduction to marine animals in the coastal areas of Kyoto	<b>Instructor's name, job title, and department of affiliation</b>	Field Science Education and Research Center Assistant Professor, SUZUKI KEITA Field Science Education and Research Center Associate Professor, KAI YOSHIKI Field Science Education and Research Center Assistant Professor, HENMI YUMI		
<b>Group</b>	Seminars in Liberal Arts and Sciences	<b>Number of credits</b>	2	<b>Number of weekly time blocks</b>	1
<b>Class style</b>	seminar (Face-to-face course)	<b>Year/semesters</b>	2024・First semester		<b>Quota (Freshman)</b> 7 (7)
<b>Target year</b>	Mainly 1st year students	<b>Eligible students</b>	For all majors		<b>Days and periods</b> Fri.5
<b>Classroom</b>	(North Campus)			<b>Language of instruction</b>	Japanese
<b>Keyword</b>	舞鶴水産実験所 / 魚類 / プランクトン / ベントス / 日本海				

#### [Overview and purpose of the course]

京都の海をフィールドに日本海沿岸域の環境と生物の特徴と多様性を学ぶ。

まず、吉田キャンパスにおける3回の講義と参加者同士の議論を通し、日本海沿岸域の魚類とプランクトン（浮遊生物）およびベントス（底生生物）の形態や生態と生息環境の関係を学習する。

次に、フィールド科学教育研究センター舞鶴水産実験所において2泊3日の実習に参加し、教育研究船による海洋観測や生物採集、サンプル分析やデータ解析、卸売市場の見学などを行い、京都の海の魅力と不思議を体感する。

最後に、吉田キャンパスにおいて講義と実習を通して学んだ成果を各自が発表し、参加者同士で意見交換を行う。

#### [Course objectives]

- ・日本海沿岸域の環境と生物の特徴と多様性を理解する。
- ・沿岸域における生態学的調査の基礎を習得する。
- ・海洋生態系の主な構成要素とそれらの相互関係を理解する。

#### [Course schedule and contents]

第1回講義 6月21日（金）「日本海の環境とプランクトン」

（担当：鈴木；場所：農学部）

- ・海洋生態系の主な構成要素とそれらの相互関係を説明する。
- ・日本海の環境とプランクトンの特徴を解説する。
- ・担当教員による関連研究の最新成果も紹介する。

第2回講義 6月28日（金）「日本海のベントス」

（担当：遠見；場所：農学部）

- ・ベントスの多様性とその生息環境について解説する。
- ・日本海におけるベントスの特徴について解説する。
- ・担当教員による関連研究の最新成果を紹介する。

ILASセミナー：京都の海の沿岸動物学入門(2)

第3回講義 7月5日(金)「日本海の魚と水産業」

(担当：甲斐；場所：農学部)

- ・日本海の魚の特徴とその由来を解説する。
- ・日本海を代表する魚種とその漁業を解説する。
- ・日本海の魚類多様性に関する議論をする。

実習 7月13日(土)~15(月・祝)「京都の海の魅力と不思議を体感」

(担当：鈴木・甲斐・遠見；場所：舞鶴水産実験所)

- ・西舞鶴駅に集合・解散(公共交通機関により各自移動)
- ・教育研究船により海洋観測と生物採集を体験する。
- ・魚類・プランクトン・ベントスを同定・計数し、環境と生物の関係を分析する。
- ・卸売市場などを見学する。

第4回講義 日程未定「成果発表と意見交換」

(担当：鈴木・甲斐・遠見；場所：農学部またはオンライン)

- ・講義と実習を通して学んだ成果を各自が発表し、参加者同士で意見交換を行う。

**[Course requirements]**

None

**[Evaluation methods and policy]**

講義への参加姿勢(20点)、実習への参加姿勢(40点)、成果発表と意見交換の内容や姿勢(40点)について、到達目標の達成度にもとづき評価する。

**[Textbooks]**

Not used

**[References, etc.]**

(References, etc.)

山下ほか『里海フィールド科学 - 京都の海に学ぶ人と自然の絆』(京都大学学術出版会, 2022年) ISBN:978-4814004454

蒲生俊敬『日本海 その深層で起こっていること』(講談社, 2016年) ISBN:978-4062579575

中坊徹次『小学館の図鑑Z 日本魚類館』(小学館, 2018年) ISBN:978-4092083110

日本ベントス学会『海岸動物の生態学入門 - ベントスの多様性に学ぶ』(海文堂, 2020年) ISBN:978-4303800512

(Related URL)

<https://www.maizuru.marine.kais.kyoto-u.ac.jp/>(舞鶴水産実験所ホームページ)

**[Study outside of class (preparation and review)]**

参考書などに目を通し、日本海的环境と生物の概要を理解したうえで、自らの興味に応じ疑問点を整理してください。

**[Other information (office hours, etc.)]**

特に専門的な知識は必要ありませんが、海的环境や生物に興味のある人を募集します。フィールドでの実習を伴うため、傷害保険(学生教育研究災害傷害保険、旅行傷害保険等)に必ず加入してください。また、実習期間中の交通費や宿泊費は各自が負担することになります。なお、第4回講義「成果発表と意見交換」を8月中旬以降に実施した場合、成績報告が通常より遅れる可能性があります。

Continue to ILASセミナー：京都の海の沿岸動物学入門(3)

ます。